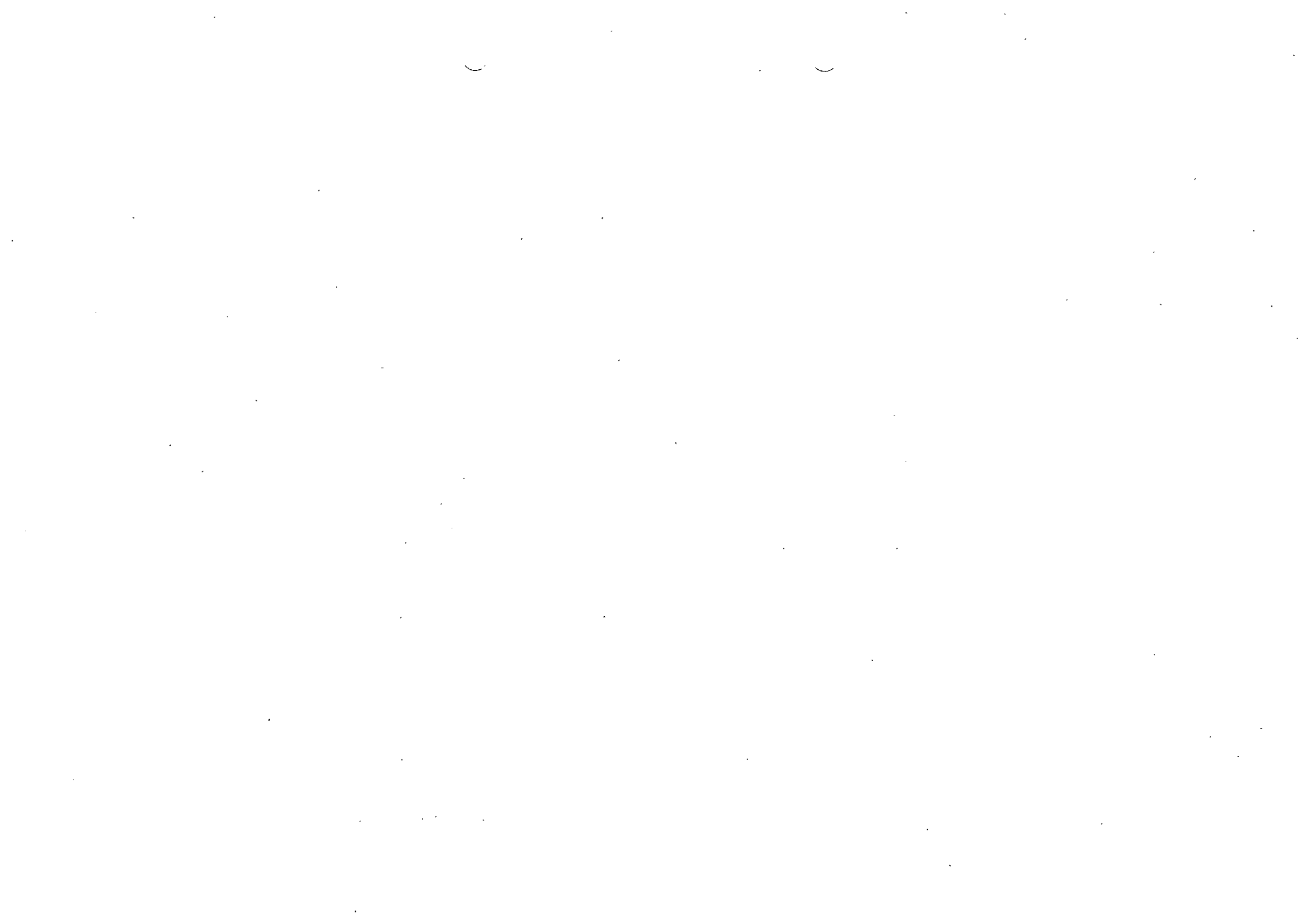


「職業訓練上特別な支援を要する障害者」の範囲の見直しについて(案)



「職業訓練上特別な支援を要する障害者」の範囲の見直しについて(案)

1 「職業訓練上特別な支援を要する障害者」の範囲の検討に当たっての基本的考え方

職業訓練上特別な支援を要する障害者（以下「特別支援障害者」という。）に関しては、障害者職業能力開発校（以下「障害者校」という。）の果たすべき役割を念頭に置きつつ、障害者校が特に重点的に取り組むべき対象者として位置づけ、その受入れと円滑な職業訓練を推進するために、その対象者の範囲を定めてきている。

「職業訓練上特別な支援を要する障害者の在り方に関する検討会」（以下「検討会」という。）では、平成20年に定めた特別支援障害者の範囲を再検討するため、昨年11月以降、これまで検討会を3回開催し、課題や論点等について検討を行い、それを踏まえて、調査（①障害者職業能力開発校における入校選考状況調査（平成23年度）及び障害者職業能力開発校における障害別入校・修了・就職状況調査（平成23年度）（以下「入校状況調査」という。）、②訓練生に対する支援・配慮事項調査（以下「支援等事項調査」という。）、③特別支援障害者の要件に該当する障害種別・程度別に関するアンケート調査（以下「3要件調査」という。）、④「職業訓練上の特別な支援を要する障害者」に関する状況把握調査（以下「状況把握調査」という。）を実施してきている。

これまでの検討・調査結果を踏まえて、今後、障害者校が特に積極的に受入れ、重点的に支援に取り組むべき対象者の範囲については、以下の基準をもとに、総合的に勘案して具体的範囲の決定を行うこととする。

① 訓練生に対する支援・配慮の内容【状況把握調査等】

（※ 状況把握調査の点数が概ね平均点以上であること、平均点を上回る調査項目が多いことを対象の目安とするが、同じ障害種別・程度であってもサンプル数が少ないものがあること、支援・配慮の度合いに個人差があること、調査実施施設が4校であるために調査員が異なることから各調査項目の判断基準が完全に調整出来ない面があることなどから、評価する場合に留意が必要である）

② 障害者校における訓練生の受入状況（一般校の障害者向けコースにおける訓練生の受入状況を含む）【入校状況調査等】

③ 職業訓練上の課題【訓練技法の開発・普及状況、求職状況等】

④ 施策の継続性

2 「職業訓練上特別な支援を要する障害者」の範囲の個別検討

【視覚障害】

◆ 視覚障害1級

- ・ サンプル数は5人となっている
- ・ 合計平均点は79.0点と全体の平均点（44.1点）及び特別支援障害者の平均点（53.0点）を大きく上回り、全体で1番目に高くなっている
- ・ 全体の調査項目（21項目）のうち各項目の全体平均点を上回っている項目は20項目、特別支援障害者の平均では17項目となっている

（参考）

応募者数	21人	入校者数	15人	入校しなかった者の割合	28.6%
就職者を除いた中退率		8.3%		就職率	58.3%

◆ 視覚障害2級

- ・ サンプル数は7人となっている
- ・ 合計平均点は54.9点と全体及び特別支援障害者の平均点を上回り、全体で8番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は13項目、特別支援障害者の平均では12項目となっている

（参考）

応募者数	20人	入校者数	12人	入校しなかった者の割合	40.0%
就職者を除いた中退率		0%		就職率	70.0%

見直し案

対象とする（現行のとおり）

視覚障害1級・2級については、

- ・ 状況把握調査において、視覚障害者1級については全体の平均点を大きく上回り、2級についても平均点を上回っていること
- ・ 入校状況調査をにおいて、入校しなかった者の割合は、1級・2級ともに全体平均（43.9%）を下回っているものの、平成23年度の入校者数は、1級・2級とともに少ない状況にあること
- ・ 支援・配慮内容調査、特別支援内容調査をみると、支援機器の活用方法等訓練ノウハウの定着も課題と考えられること
- ・ 障害者校において、重度視覚障害者向け専門コースの設置が徐

々に進められているが、設置していない障害者校が多いことから、引き続き、障害者の訓練ニーズに対応した支援ノウハウを蓄積し、積極的な受入れを促進する必要がある。

【聴覚障害】

◆ 聴覚障害1級（言語障害との重複）

- ・ サンプル数は6人となっている
- ・ 合計平均点は33.2点と全体の平均点を大きく下回り、全体で18番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は5項目、特別支援障害者の平均では3項目となっている

（参考）

応募者数	11人	入校者数	4人	入校しなかった者の割合	63.6%
就職者を除いた中退率		33.3%		就職率	0%

◆ 聴覚障害2級

- ・ サンプル数は10人となっている
- ・ 合計平均点は28.5点と全体の平均点を大きく下回り、全体で22番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は1項目、特別支援障害者の平均では1項目となっている

（参考）

応募者数	186人	入校者数	108人	入校しなかった者の割合	41.9%
就職者を除いた中退率		9.8%		就職率	66.3%

見直し案 対象としない（現行のとおり）

聴覚障害1級・2級については、

- ・ 状況把握調査において、聴覚障害1級・2級ともに、全体の平均点を大きく下回り、調査項目のうち全体平均点を上回っている項目も少ないこと
- ・ 入校状況調査において、1級については入校者数が少なく、加えて、入校しなかった者の割合が全体平均より高くなっているが、その主な理由をみると、基礎学力不足、入校辞退、定員以上の応募があり選抜となっていること、他方、2級については、一定数の訓練生が障害者校に入校していること

から、職業訓練ノウハウも定着していると考えられるため、引き続き障害特性に配慮しつつ、職業訓練を実施する必要がある。

【上肢障害（脳性まひによる上肢機能障害を含む）】

◆ 上肢障害1級

- ・ サンプル数は3人となっている
- ・ 合計平均点は30.8点と全体の平均点を下回り、全体で20番目となっている
- ・ サンプルとなっている人（3人）の点数は、それぞれ55点、35点、3点となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は4項目、特別支援障害者の平均では2項目となっている

（参考）

応募者数	10人	入校者数	6人	入校しなかった者の割合	40.0%
就職者を除いた中退率		0%		就職率	60.0%

◆ 上肢障害2級

- ・ サンプル数は7人となっている
- ・ 合計平均点は31.0点と全体の平均点を下回り、全体で19番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は4項目、特別支援障害者の平均では1項目となっている

（参考）

応募者数	29人	入校者数	19人	入校しなかった者の割合	34.5%
就職者を除いた中退率		8.3%		就職率	58.3%

◆ 脳性まひによる上肢機能障害1級

- ・ サンプル数は3人となっている
- ・ 合計平均点は33.4点と全体の平均点を下回り、全体で17番目となっている
- ・ サンプルとなっている人（3人）の点数は、それぞれ54点、40点、6点となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は6項目、特別支援障害者の平均では3項目となっている

◆ 脳性まひによる上肢機能障害2級

- ・ サンプル数は2人となっている

- ・ 合計平均点は45.5点と全体の平均点を上回り、全体で10番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は14項目、特別支援障害者の平均では10項目となっている

見直し案

上肢障害1級、脳性まひによる上肢機能障害1級・2級を対象とする（現行の見直し）

上肢障害1級・2級については、

- ・ 状況把握調査において、1級・2級ともに全体の平均点を下回っているが、上肢障害1級については、サンプル数が少ないことに加え、サンプルの個人の状況により特別な支援の度合の個人差が大きくなっているため、全体の平均点のみで評価する際に留意が必要なこと
- ・ 入校状況調査において、1級・2級ともに入校しなかった者の割合は全体平均を下回っているものの、1級については入校者数が少ないこと

から、上肢障害1級について、引き続き、障害者の訓練ニーズに対応した支援ノウハウを蓄積し、積極的な受入れを促進する必要がある。

脳性まひによる上肢機能障害1級・2級については、

- ・ 状況把握調査において、1級については全体の平均点を下回っているがサンプル数が少ないことに加え、サンプルの個人の状況により特別な支援の度合の個人差が大きくなっているため、全体の平均点のみで評価する際に留意が必要なこと
- 他方、2級については、全体の平均点を上回り、調査項目では多くの項目の点数が高くなっていること

から、1級・2級ともに、障害者の訓練ニーズに対応した支援ノウハウを蓄積し、積極的な受入れを促進する必要がある。

【下肢障害（脳性まひによる移動機能障害を含む）】

◆ 下肢障害1級

- ・ サンプル数は7人となっている
- ・ 合計平均点は26.9点と全体の平均点を下回り、全体で24番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は3項目、特別

支援障害者の平均では1項目となっている

(参考)

応募者数	63人	入校者数	36人	入校しなかった者の割合	42.9%
就職者を除いた中退率		8.3%	就職率		58.3%

◆ 下肢障害 2級

- ・ サンプル数は11人となっている
- ・ 合計平均点は23.7点と全体の平均点を下回り、全体で25番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は2項目、特別支援障害者の平均では1項目となっている

(参考)

応募者数	74人	入校者数	43人	入校しなかった者の割合	41.9%
就職者を除いた中退率		10.5%	就職率		65.8%

◆ 脳性まひによる移動機能障害 1級

- ・ サンプル数は1人となっている
- ・ 合計平均点は27.0点と全体の平均点を下回り、全体で23番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は7項目、特別支援障害者の平均では5項目となっている

◆ 脳性まひによる移動機能障害 2級

- ・ サンプル数は4人となっている
- ・ 合計平均点は28.9点と全体の平均点を下回り、全体で21番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は4項目、特別支援障害者の平均では2項目となっている

見直し案

対象としない (現行のとおり)

下肢障害 (脳性まひによる移動機能障害を含む) 1級・2級については、

- ・ 状況把握調査において、1級・2級ともに全体の平均点を大きく下回り、調査項目のうち全体平均点を上回っている項目も少ないこと

なお、脳性まひによる移動機能障害1級はサンプル数が少ない

ことから評価する際に留意が必要なこと

- ・ 入校状況をみると、下肢障害1級・2級ともに入校しなかった者の割合は全体平均を下回り、加えて一定数の訓練生が障害者校に入校していること

から、下肢障害（脳性まひによる移動機能障害を含む）1級・2級については、職業訓練ノウハウも定着していると考えられるため、引き続き障害特性に配慮しつつ、職業訓練を実施する必要がある。

【体幹機能障害】

◆ 体幹機能障害1級

- ・ サンプル数は5人となっている
- ・ 合計平均点は44.6点と全体の平均点を上回り、全体で12番目となっている
- ・ サンプルとなっている人（5人）の点数は、最高点88点、最低点23点となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は11項目、特別支援障害者の平均では5項目となっている

(参考)

応募者数	14人	入校者数	7人	入校しなかった者の割合	50.0%
就職者を除いた中退率		10.0%	就職率		40.0%

◆ 体幹機能障害2級

- ・ サンプル数は5人となっている
- ・ 合計平均点は39.4点と全体の平均点を下回り、全体で15番目となっている
- ・ サンプルとなっている人（5人）の点数は、最高点90点、最低点7点となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は9項目、特別支援障害者の平均では6項目となっている

(参考)

応募者数	16人	入校者数	12人	入校しなかった者の割合	25.0%
就職者を除いた中退率		10.0%	就職率		50.0%

見直し案 対象とする (現行のとおり)

体幹機能障害1級・2級については、

- ・ 状況把握調査において、1級は全体の平均点を上回り、調査項目でも多くの項目の点数が高くなっていること、他方、2級については全体の平均点を下回っているが、調査項目では9項目の点数が高く、概ね平均的な数が平均点を上回っていること
他方、1級・2級のサンプルの個人についてみると、同じ障害種別・程度でも個人の状況により特別な支援の度合いの個人差が大きくなっていることから、全体の平均点のみで評価する際に留意が必要なこと（体幹機能障害1級・2級については、体幹障害のみならず、上肢障害、下肢障害など合併した症状をもつ人も多く、個々の態様により特別な支援の度合いについても個人差が大きくなること）
- ・ 入校状況調査をみると、入校しなかった者の割合は1級は全体平均を上回っているものの、2級は下回っていること、また、1級・2級ともに入校者数が少ないこと
から、引き続き、「体幹機能障害1級・2級であって特に配慮を必要とする者」について、障害者の訓練ニーズに対応した支援ノウハウを蓄積し、積極的な受入れを促進する必要がある。

【内部障害】

◆ 内部障害1級

- ・ サンプル数は7人となっている
- ・ 合計平均点は17.3点と全体の平均点を下回り、全体で27番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目はない

(参考)

応募者数	91人	入校者数	51人	入校しなかった者の割合	44.0%
就職者を除いた中退率		8.3%	就職率		66.7%

◆ 内部障害2級

- ・ サンプル数は2人となっている
- ・ 合計平均点は21.0点と全体の平均点を下回り、全体で26番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は2項目、特別支援障害者の平均では1項目となっている

(参考)

応募者数	7人	入校者数	5人	入校しなかった者の割合	28.6%
就職者を除いた中退率		25.0%	就職率		75.0%

見直し案 対象としない (現行のとおり)

内部障害1級・2級については、

- ・ 状況把握調査において、1級・2級ともに、全体の平均点を大きく下回り、調査項目で点数が高い項目がほとんどないこと
なお、2級はサンプル数が少ないことから評価する際に留意が必要なこと
- ・ 入校状況をみると、入校しなかった者の割合は内部障害1級については全体平均をやや上回っているものの2級は下回り、また、1級では一定数の訓練生が障害者校に入校していることから、職業訓練ノウハウも定着していると考えられるため、引き続き、障害特性に配慮しつつ、職業訓練を実施する必要がある。

【知的障害】

◆ 知的障害重度

- ・ サンプル数は1人となっている
- ・ 合計平均点は77.0点と全体の平均点を上回り、全体で2番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は16項目、特別支援障害者の平均では16項目となっている

(参考)

応募者数	11人	入校者数	1人	入校しなかった者の割合	90.9%
就職者を除いた中退率		100%	就職率		0%

◆ 知的障害中度

- ・ サンプル数は6人となっている
- ・ 合計平均点は43.6点と全体の平均点を下回り、全体で13番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は11項目、特別支援障害者の平均では5項目となっている

(参考)

応募者数	208人	入校者数	98人	入校しなかった者の割合	52.9%
就職者を除いた中退率		9.3%	就職率		74.2%

◆ 知的障害軽度

- ・ サンプル数は9人となっている
- ・ 合計平均点は43.0点と全体の平均点を下回り、全体で14番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は12項目、特別支援障害者の平均では7項目となっている

(参考)

応募者数	441人	入校者数	253人	入校しなかった者の割合	42.6%
就職者を除いた中退率		6.0%	就職率		83.3%

見直し案

知的障害重度を対象とする (現行の見直し)

知的障害中度・軽度を対象としない (現行のとおり)

知的障害重度については、

- ・ 状況把握調査において、全体の平均点を大きく上回り、調査項目では多くの項目の点数が高くなっていること
なお、サンプル数が1人と少ないことから評価する際に留意が必要なこと
 - ・ 入校状況調査をみると、入校しなかった者の割合は大きく平均を上回り、入校者数は、極めて少ないこと
- から、障害者の訓練ニーズに対応した支援ノウハウを蓄積し、積極的な受入れを促進する必要がある。

知的障害中度・軽度については、

- ・ 状況把握調査において、中度・軽度ともに全体の平均点を下回っていること
- ・ 入校状況調査をみると、入校しなかった者の割合は知的中度は上回っているが、その主な理由をみると、入校辞退、定員以上の応募があり選抜となっていること、他方、軽度は下回っていること
入校者数は、中度・軽度ともに、一定数の訓練生が障害者校に入校していること

- ・ 知的障害者を対象とした職業訓練コースが既に障害者校（同一県内に知的障害者専門の障害者校を有する愛知障害者職業能力開発校を除く）に設定されていること、加えて、一般校に知的障害者向けの職業訓練コースが設置され、他の障害者に比べ訓練コースの設置が進んでいること
- から、職業訓練ノウハウも定着していると考えられるため、引き続き障害特性に配慮しつつ、職業訓練を実施する必要がある。

【精神障害】

◆ 精神障害 1 級

- ・ サンプル数は1人となっている
- ・ 合計平均点は74.0点と全体の平均点を上回り、全体で3番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は15項目、特別支援障害者の平均では15項目となっている

(参考)

応募者数	11人	入校者数	3人	入校しなかった者の割合	72.7%
就職者を除いた中退率		66.7%		就職率	33.3%

◆ 精神障害 2 級

- ・ サンプル数は9人となっている
- ・ 合計平均点は63.7点と全体の平均点を上回り、全体で5番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は17項目、特別支援障害者の平均では16項目となっている

(参考)

応募者数	210人	入校者数	119人	入校しなかった者の割合	43.3%
就職者を除いた中退率		17.6%		就職率	44.0%

◆ 精神障害 3 級

- ・ サンプル数は9人となっている
- ・ 合計平均点は60.2点と全体の平均点を上回り、全体で6番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は17項目、特別支援障害者の平均では15項目となっている

(参考)

応募者数	116人	入校者数	62人	入校しなかった者の割合	46.6%
就職者を除いた中退率		16.7%	就職率		56.3%

見直し案 対象とする (現行のとおり)

精神障害者1級・2級・3級については、

- ・ 状況把握調査において、全体の平均点を大きく上回り、調査項目のうち全体平均点を上回っている項目も多いこと
なお、精神障害1級はサンプル数が少ないことから評価する際に留意が必要なこと
- ・ 入校状況調査をみると、入校しなかった者の割合は1級は大きく平均を上回り、3級も上回っていること、また、入校者数は、1級は極めて少ないこと
また、就職者を除いた中退率が1級・2級・3級について高くなっていること

から、障害者の訓練ニーズに対応した支援ノウハウを蓄積し、積極的な受入れを促進する必要がある。なお、2級・3級については一定数の訓練生が障害者校に入校しているものの、障害者校に精神障害者向けの訓練コースの設置数が十分でないこと、ハローワークへの求職申込み件数も多く、その増加割合も高い状況にあることから、引き続き、障害者の訓練ニーズに対応した支援ノウハウを蓄積し、積極的な受入れを促進する必要がある。

【発達障害】

◆ 発達障害

- ・ サンプル数は10人となっている
- ・ 合計平均点は55.3点と全体の平均点を上回り、全体で7番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は15項目、特別支援障害者の平均では15項目となっている

(参考)

応募者数	112人	入校者数	73人	入校しなかった者の割合	34.8%
就職者を除いた中退率		10.5%	就職率		63.2%

見直し案 対象とする (現行のとおり)

発達障害者については、

- ・ 状況把握調査において、全体の平均点を上回り、調査項目では、平均点を上回る項目が多くなっていること

から、一定数の訓練生が入校しているものの、障害者校に発達障害者向けの訓練コースの設置が十分でないこと、ハローワークの求職申込み件数の増加割合も高い状況にあることから、引き続き、障害者の訓練ニーズに対応した支援ノウハウを蓄積し、積極的な受入れを促進する必要がある。

【高次脳機能障害】

◆ **高次脳機能障害**

- ・ サンプル数は4人となっている
- ・ 合計平均点は69.2点と全体の平均点を上回り、全体で4番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は16項目、特別支援障害者の平均では16項目となっている

(参考)

応募者数	27人	入校者数	17人	入校しなかった者の割合	37.0%
就職者を除いた中退率		16.7%	就職率		33.3%

見直し案 対象とする (現行のとおり)

高次脳機能障害については、

- ・ 状況把握調査において、全体の平均点を大きく上回り、調査項目でも、平均点を上回る項目が多くなっていること
- ・ 入校状況調査をみると、入校しなかった者の割合は平均を下回っているものの、入校者数が少ないこと、また、就職者を除いた中退率が高くなっていること

から、引き続き、障害者の訓練ニーズに対応した支援ノウハウを蓄積し、積極的な受入れを促進する必要がある。

【重複障害】

◆ 2級以上の両上肢障害及び2級以上の両下肢障害

- ・ サンプル数は5人となっている
- ・ 合計平均点は45.4点と全体の平均点を上回り、全体で11番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は12項目、特別支援障害者の平均では6項目となっている

見直し案

対象とする（現行のとおり）

2級以上の両上肢障害及び2級以上の両下肢障害については、

- ・ 状況把握調査において、全体の平均点を上回り、調査項目でも、平均点を上回る項目が多くなっていること
- から、引き続き、障害者の訓練ニーズに対応した支援ノウハウを蓄積し、積極的な受入れを促進する必要がある。

◆ 3級以上の脳性まひによる上肢機能障害及び3級以上の脳性まひによる移動機能障害

- ・ サンプル数は7人となっている
- ・ 合計平均点は39.3点と全体の平均点を下回り、全体で16番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は8項目、特別支援障害者の平均では5項目となっている

見直し案

対象としない（見直し）

3級以上の脳性まひによる上肢機能障害及び3級以上の脳性まひによる移動機能障害については、

- ・ 状況把握調査において、全体の平均点を下回り、調査項目では平均点を上回る項目が多くないこと
- から、職業訓練ノウハウも定着していると考えられるため、引き続き障害特性に配慮しつつ、職業訓練を実施する必要がある。

◆ 知的障害及び身体障害

- ・ サンプル数は8人となっている
- ・ 合計平均点は54.1点と全体の平均点を上回り、全体で9番目となっている
- ・ 調査項目のうち全体平均点を上回っている項目は14項目、特別支援障害者の平均では10項目となっている

(参考)

応募者数	31人	入校者数	16人	入校しなかった者の割合	48.4%
就職者を除いた中退率		0%	就職率		53.3%

見直し案 対象とする (現行の見直し)

知的障害及び身体障害については、

- ・ 状況把握調査において、全体の平均点を上回り、調査項目でも、平均点を上回る項目が多くなっていること
- ・ 入校状況調査において、入校しなかった者の割合は平均を上回っていること

から、障害者の訓練ニーズに対応した支援ノウハウを蓄積し、積極的な受入れを促進する必要がある。

しかしながら、知的障害及び身体障害の重複者は、身体障害種別やその程度によって多くの事例があり、その中には特別な支援が必要でない場合も考えられることなど個々の態様により、支援・配慮を行う必要があることから、「知的障害及び身体障害であって特に配慮を必要とする者」について対象とする。

特別支援障害者の範囲の見直し案（対照表）

現 行	見直し案
視覚障害1級・2級の者	(現行のとおり)
上肢障害1級の者	(現行のとおり)
脳性まひによる上肢機能障害1級の者	脳性まひによる上肢機能障害1級・2級の者
2級以上の両上肢機能障害及び2級以上の両下肢機能障害を重複する者	(現行のとおり)
3級以上の脳性まひによる上肢機能障害及び3級以上の脳性まひによる移動機能障害を重複する者	—
体幹障害1級・2級であって、特に配慮を必要とする者	(現行のとおり)
—	重度知的障害者（新規）
—	知的障害及び身体障害の重複障害であって、特に配慮を必要とする者（新規）
精神障害者	(現行のとおり)
発達障害者	(現行のとおり)
高次脳機能障害者	(現行のとおり)